
文化庁のコンテンツ関連施策について

1. クリエイター等育成支援
2. メディア芸術ナショナルセンター（仮称）構想
3. 海賊版対策
4. クリエイター・アーティスト等の尊厳ある創造環境の整備

令和7年2月13日

文 化 庁

クリエイター・アーティスト支援と海外展開の戦略全体構想

我が国の文化芸術の芸術性・創造性の向上

海外市場でのビジネス展開へ

グローバルな評価形成

価値付け

連携

経済産業省

外務省

CBX (Cultural Business Transformation) の観点から、文化庁が国内で育成支援した海外で活躍が期待される若手クリエイター・アーティストなどを戦略的に選抜。世界で高い評価を得ることを目標とする。

グローバルに活躍する
人材の輩出

クリエイター支援基金
(複数年度)

文化庁人材育成事業

メディア芸術クリエイター等育成

新進芸術家の海外研修

若手映画監督・スタッフ育成

芸術家等人材育成

「土壌」づくり
(単年度)

令和7年度予算額 (案)

- ・メディア芸術クリエイター等育成 4億円
- ・若手映画監督・スタッフ育成 1.4億円
- ・新進芸術家の海外研修 2億円
- ・芸術家等人材育成 4.9億円

- ▶ 令和5年度補正 クリエイター等・文化施設高付加価値化支援事業（クリエイター・アーティスト育成支援）については、舞台芸術（音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能等）、メディア芸術、現代アート、分野横断的新領域における育成プロジェクト**29件**を採択（**120件申請**）。
- ▶ 今後3年間において、**卓越した若手クリエイターを選抜**、伴走型支援により、**世界的に認知されている国際映画祭、見本市、美術館・劇場等での公演・展示等へ参画**予定。

海外展開を通じた若手クリエイター等育成、戦略的なネットワーク形成・人脈づくりを世界各地において実施



コンテンツ関係
クラシック関係
現代アート関係

若手クリエイター・アーティスト育成対象者

各団体において選抜した育成対象者は、現時点で、令和6年度から8年度の3年間において、国際的な活躍が期待される**若手クリエイターやアーティスト等が約400名決定し、活動を開始**（令和6年12月現在）。

<支援する若手クリエイターの例>

アニメ



齋藤圭一郎
(アニメディレクター)

演出、キャラクターデザインなどの担当を経て、TVシリーズの監督に。代表作は「葬送のフリーレン」他。

映画



川和田恵真
(映画監督)

是枝裕和監督作品等で監督助手を務める。現在、海外映画祭に積極的に応募。

マンガ



御前モカ
(マンガ家)

元客室乗務員で自身の体験を元にしたお仕事漫画でデビュー。海外出版を目指す。『おはよう、おやすみ、また明日。』1巻 秋田書店

演劇



瀬戸山美咲
(演出家/脚本家)

第48回菊田一夫演劇賞、第70回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

バレエ



小野紇子
(新国立劇場バレエ団プリンシパル)

2004年アデルリン・ジェニー国際バレエコンクール金賞、19年芸術選奨文部科学大臣賞。

音楽(クラシック)



田中弘基
(作曲家)

令和5年度新進芸術家海外研修制度にて、独ドレスデン音楽大学修士課程で学ぶ。第33回芥川也寸志サントリー作曲賞ノミネート。

伝統芸能(邦楽)



黒田鈴尊
(尺八奏者)

令和元年度文化庁文化交流使。新作尺八コンチェルトの世界初演等に積極的に取り組む。

<今後の支援内容(予定)>

ヨーロッパアニメ制作会社でのインターン参加、アニメエキスポ(米)で作品発表

カンヌ国際映画祭等のコンパニオンへ参加

アニメエキスポ(米)等の海外有カイベントでの作品発表

初演の舞台や欧米での公演立ち上げに参画

ロンドン公演に主演予定

ルツェルン音楽祭(スイス)への参加や再来年の新作海外オペラ公演へ参画

欧米での海外公演に参加

- クリエイター等支援について、(独)日本芸術文化振興会に設置する「**クリエイター支援基金**」を活用し、3年程度**弾力的かつ複数年度にわたってシームレスな枠組みで海外展開等を戦略的に推進**。

- 両省庁連携により 120億円



「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」

- ① コンテンツ分野における産学官連携による教育機関の機能強化支援
- ② コンテンツ創造・海外展開における実践的な社会人育成支援
- 一元的な情報発信・相談・調査研究等の体制強化

育成・創造活動支援
(クリエイター育成・発信・活躍)



クリエイターへの循環

還元



海外展開支援

(経済圏・ファンコミュニティ拡大)

「クリエイター事業者支援事業（事業化・海外展開推進）」

クリエイターと海外市場を獲得するための戦略的支援
(基金：プロダクション等)

クリエイター・エンタメ・スタートアップ事業（単年度）

クリエイター・デジタル・エンタメ構造改革事業（単年度）

一元的な相談窓口の設営

各事業を通じた環境改善
労働環境改善の取組へのプラス評価など

一貫性のある支援策の情報発信

①コンテンツ分野における産学官による教育機関の機能強化支援（課題と対応）

- ・産学官が連携し、クリエイターに必要なスキルの可視化及びこれらのスキル習得を目指したカリキュラムを実践する大学・専門学校等の学科・コースの創設等の支援を行う。

海外展開を目指した教育における課題

対応する施策

◎制作需要に対する人材の不足

- ・国内外の需要に対し、例えばアニメ分野では、アニメーターや制作工程を管理する者等の人材不足
 - ※コンテンツ海外売上2033年・20兆円(うちアニメ分6兆円)の目標達成には、現状のアニメーター数約6,000人(推計)に対して、約30,000人(推計)が必要
 - ※現在、アニメ分野の専門学校の1学年の入学定員は約2,000人(推計)

◎業界で必要なスキルと大学・専門学校等が提供する教育プログラムのギャップ

- ・新しい高度な技術や海外のトレンドを踏まえたスキルへの対応が不十分
 - ◆作画とCGのハイブリッドアニメ
3DCG等ハイディティールなCG背景を制作する技術力が必要
 - ◆アニメ制作の技術
高いデッサン力、2DCG・3DCG、チームで製作するコミュニケーション能力等の一体的な習得が必要

◎コンテンツ分野における海外の教育機関の新しい展開に劣後

- ・海外の代表的な教育機関は世界展開を狙う企業との提携による実践プログラムを実施しており、その流れに遅れを取っている

◎産業界と連携し、海外の最新トレンドを踏まえた必要なスキルを可視化。教材開発・教育プログラムへ反映

◎それらを踏まえた、企画開発・制作から海外発信までを経験する実践的なプログラムを含む大学・専門学校等の学科・コースの創設等を支援

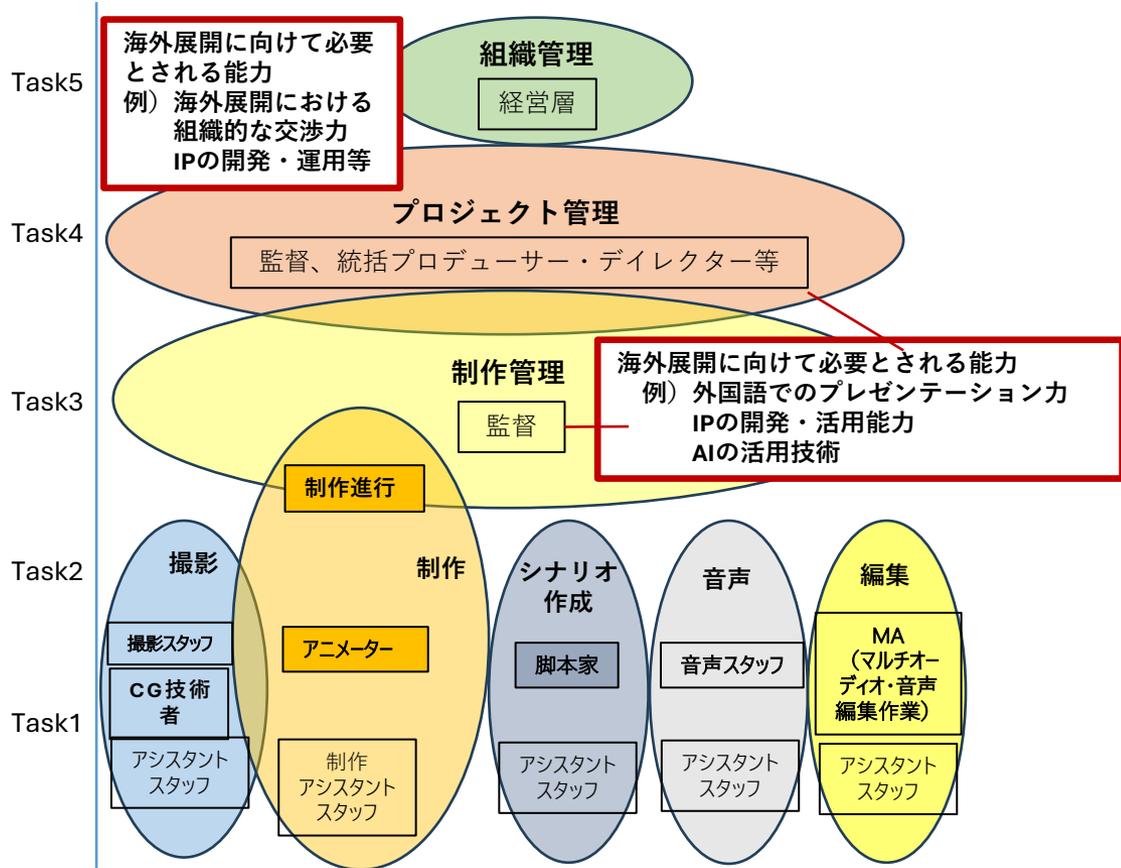
（取組例）

- 企業や海外専門家の講師招へい
- 3DCG、VFX、AI活用等の最新技術を導入
- 海外専門機関・企業等でのインターンシップ等実施

① 関係：アニメ制作の人材スキルマップ例（イメージ）

クリエイターにとって、新たに必要なスキルを習得できるよう、国際的な活動を視野に入れた産学官連携によるプログラムを調査・協議の上で、開発・実証・実装

業務タスク



業務タスク	組織内での担当業務
5	大規模組織・プロジェクトの責任者として、広範かつ統合的な判断及び意思決定を行う
4	中小規模組織・プロジェクトの責任者として、組織のマネジメントや採算管理を行う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・業務リーダーとして、業務遂行を手動するとともに、業務のマネジメントや業務単位の採算管理を行う。 ・豊富な業務経験を生かして、高難易度の業務遂行や困難事項への対応を行う。
2	グループやチームの中心メンバーとして、創意工夫を凝らして自主的な判断、改善、提案などを行いながら業務を遂行する。
1	担当者として、上司の指示・助言を踏まえて通常の定業務的業務を確実に遂行する。

新たな知識・技術
 例) 海外の動向も踏まえた、作品制作における3DCG、VFX、AI活用、著作権対応など
 チームの中で、これらを活かした制作・コミュニケーション力など

メディア芸術ナショナルセンター（仮称）構想について

国として、マンガ、アニメ、特撮、ゲーム等の保存・活用、人材育成、調査研究、国際発信等に関する**全国の関係機関の「ハブ」となる拠点の整備を推進**

1 マンガ原画・アニメセル画等「中間生成物」の保存活用に関する調査研究

- 令和6年度より、産学官の有識者が参画する専門部会でマンガ原画等の調査等を通じた保存・活用に係る方針の検討、課題整理を実施、作家を対象としたマンガ原画等の調査研究、海外のキュレーターを交えた国際シンポジウム等も実施

2 メディア芸術ナショナルセンター（仮称）の機能を有する拠点の整備推進

【新規】

- 令和6年度補正予算において、①国立映画アーカイブへの中間生成物の収蔵施設の基本設計経費、②散逸・劣化の防止が特に必要なマンガ原画等の調査研究経費を推進
- 令和7年度予算案において、国立美術館運営費交付金として、拠点整備に向けた体制整備を実施
 - ①マンガ・アニメ研究員配置（専門人材育成、調査研究、海外の美術館等との交流・国際発信等）
 - ②アニメーションフィルム研究員配置（国立映画アーカイブのアニメフィルムのアーカイブ化等）

3 全国の関係機関のネットワーク化、アーカイブ化支援

- マンガ、アニメ、特撮、ゲーム等に関する全国の博物館、大学、企業・団体、地方自治体等の産学官ネットワーク化、アーカイブ化を支援

ちばてつや氏の原画等の調査研究

目的

- メディア芸術作品の中間生成物等（原画、ネーム、取材資料等）の散逸・劣化への対応が急務となっているが、その手法は確立されていない。
- 我が国を代表するマンガ家のちばてつや氏から、画業70年にわたるマンガ原画等をお預かりし、整理し、デジタル化のパターン、保存・活用に向けた検証を実施。

実施内容

1. 収集・整理の工程・手法、適切な作業モデルの検証
2. デジタル化のパターンの検証
3. 利活用の諸条件・これまでの利活用状況の確認

主な事業成果

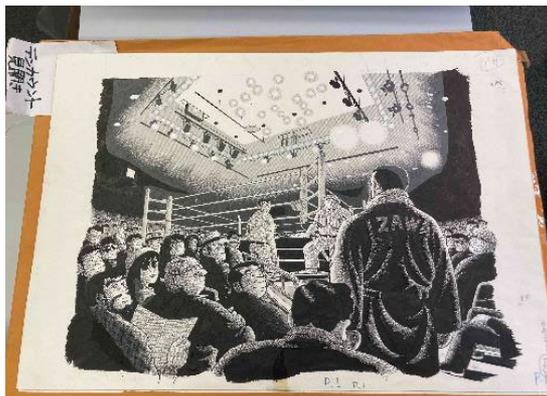
1. マンガ家が保有する原画等の内容把握
2. マンガ家が資料を保存する際のポイントや課題等の把握
(あらかじめ何をどのように保管しておけばアーカイブ作業が進めやすくなるか等)
3. マンガ以外の作品・資料を概観できたことによる、今後のちばてつや氏の作家像に関する調査研究に向けた整理

ちばてつや氏保有の中間生成物内訳

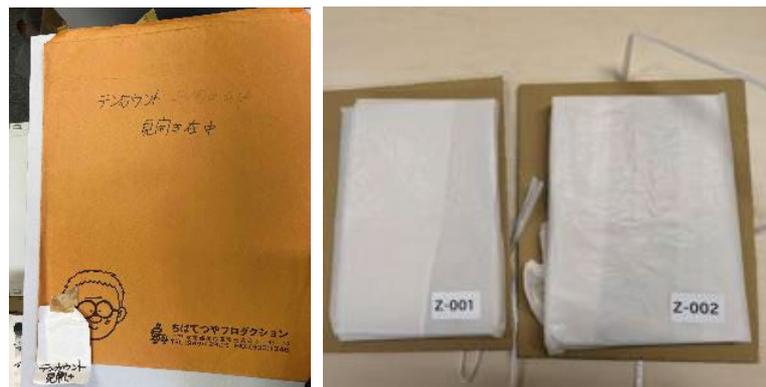
原画	単ページ、表紙等	65,284点
その他	フィルム等	986点
	貸本・その他	5,579点

合計71,849点

『テンカウント』原画



原画袋(左)から温湿度維持等に適した保管状況(右)への改善例



作業風景(原画の状態確認とデータベース作成)



国立映画アーカイブへの収蔵庫の整備（メディア芸術ナショナルセンター（仮称）収蔵施設等機能強化）

① 貴重な作品・中間生成物等の流出・散逸・劣化等を防ぐ収蔵施設の整備

➤ 基本設計経費 6,300万円

アーカイブ等の専門人材を配置し、保存の緊急性の高い中間生成物等を計画的に受け入れ、温湿度管理等適切な環境で保存・修復等を行う施設を整備。



国立映画アーカイブ相模原分館に整備



貴重な作品・中間生成物等を収蔵する環境のイメージ（国立映画アーカイブ既存収蔵庫）

◆ 今後のスケジュール(目途)

- R7年度～ / 基本設計
- R8年度～ / 実施設計・地質調査等
- R9年度(2027)～ / 建設開始
- R12年度(2030)目途 / 収蔵庫設置

② マンガ・アニメ等中間生成物保存等調査研究

➤ 調査研究経費 4,100万円

散逸・劣化の防止が特に必要な「緊要性」の高いマンガ原画等を対象に、収蔵庫での保存を見据え、内容把握、劣化の程度等の保存状態、温湿度等ふさわしい保管環境に関する調査研究を実施。

国が「ハブ」となり、全国の産学官の関係機関のネットワーク形成促進による取組が重要



マンガ原画等の内容把握の様子



ちばてつや氏の原画調査の様子



3 全国の関係機関のネットワーク化支援

全国の産学官関係機関のネットワーク化、アーカイブ化支援 (メディア芸術連携基盤等整備推進事業)

全国関係機関がネットワークを構築し、アーカイブ資料所在情報の一元的な把握・発信、マンガ原画等の一時保管、相談窓口設置、人材育成、調査研究等の機能を分担して担う取組を支援。

① マンガ・アニメ等のアーカイブ機関等のネットワーク化

マンガ原画一時保管 (約39万枚)、相談窓口の設置、データベースの登録 (約150万件) 等に対応。

(マンガ分野の例) 「マンガ原画アーカイブセンター」加盟施設 ★
その内一時保管スペースを提供している施設



② アーカイブを推進する民間企業のネットワーク化

● マンガ：一般社団法人マンガアーカイブ機構

出版社等により組織。マンガ原画等の収集・保存に向けたアーカイブの構築と調査研究等を実施。

構成団体 マンガ出版社15社：KADOKAWA、講談社、集英社、小学館等

関連4施設：横手市増田まんが美術館、明治大学米沢嘉博記念図書館、京都精華大学京都国際マンガミュージアム、熊本大学等

● アニメ・特撮：特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構

アニメや特撮に関する様々な資料を保全し、これらを活用した普及啓発等を実施。

理事長 庵野 秀明 (株式会社カラー代表取締役社長)

副理事長 氷川 竜介 (明治大学)、樋口 真嗣 (映画監督)

関連団体 アニメ・特撮関連企業：アニプレックス、KADOKAWA、カラー、バンダイナムコフィルムワークス 等

③ マンガやアニメ等の保存・活用に取り組む自治体の連携会議 (約30自治体等・年2回開催)

参加団体：北海道庁、札幌市、札幌芸術の森美術館、岩手県庁、横手市、須賀川市、石巻市、新潟市、新潟市漫画・アニメ情報館、新潟大学、公益財団法人日本科学技術振興財団、さいたま市立漫画会館、千曲市、長野県立美術館、立命館大学、京都市、京都精華大学、京都芸術センター、精華町、鳥取県庁、境港市、北栄町、青山剛昌ふるさと館、山口情報芸術センター、高知市、横山隆一記念まんが館、長崎市、熊本県庁、大津町、熊本県合志市合志マンガミュージアム、熊本大学、湯前まんが美術館、山都町、宇城市、大分県立美術館、佐伯市

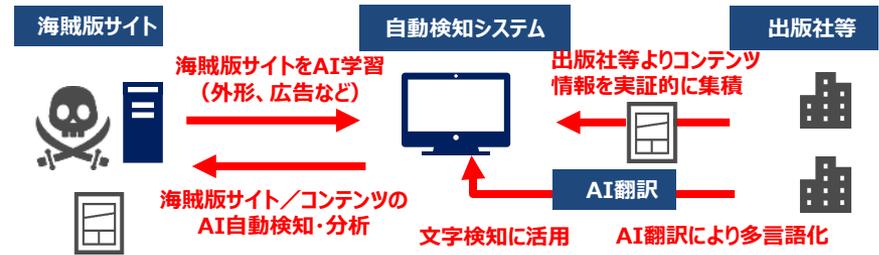
文化庁による海賊版対策事業

・海賊版被害の実態については、インターネット上における日本のコンテンツの被害額が推定で年間 2 兆円にのぼり深刻な状況であり、早急な対策が必要。
 ・このため、令和 6 年度補正予算及び令和 7 年度当初予算案において、より実効性の高い海賊版予防策の構築に向けた以下の事業を実施する。

① AIを活用した海賊版サイトの検知・分析

○AIによる海賊版自動検知システムの構築・権利行使スキームの構築等

AIを活用して、インターネット上における海賊版を自動的に検知し、検知された海賊版に対して削除申請等の権利行使を実施することを目指し、一連の対応を実装していくための課題抽出や体制整備に向けて検討を行う。(R6補正予算額 3 億円)



② 国内外ネットワークの構築等

これまで培ってきた二国間の知財部局による協議に加え、多国間において、警察当局や外交部局も含む省庁・官民が協働した**国際的な協力体制を推進**し、権利者が権利行使を行いやすい環境を整備する。このほか、権利行使強化の支援や普及啓発に係る取組も実施する。(R7当初予算案 1.3億円)

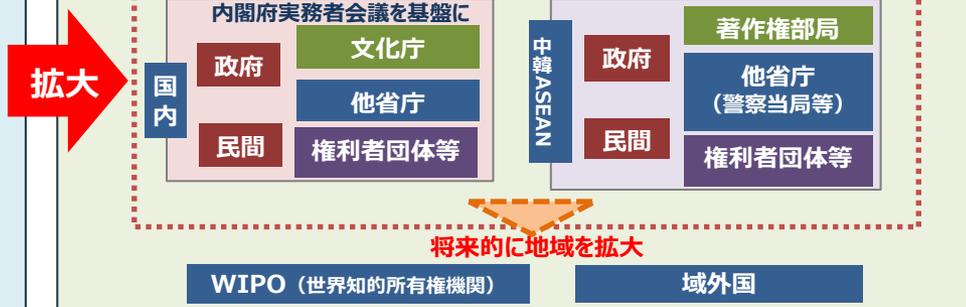
【R6実績・予定】 著作権部局間の有機的連携

- ・中国、韓国、ベトナムと覚書に基づく著作権部局2国間協議の実施
- ・マレーシア、タイとのMOUの締結等、2国間の連携強化
- ・WIPO、インターポールとの連携によるマルチな枠組の形成
- ・海外関係者を対象とした**海賊版対策実務者セミナー**開催



【R7予算案】海賊版対策の実効性を高める多国間・省庁横断の枠組形成

- ・著作権部局を超えた枠組み「**コンソーシアム**」の構築
- ・海外執行部局への効果的な**トレーニングの実施**



クリエイター・アーティスト等の尊厳ある創造環境の整備に向けた取組

①文化芸術活動に関する法律相談窓口の実施

芸術家等の活動基盤強化（R7当初予算案 0.69億円）の内数

- 有識者会議での議論を経て令和4年7月に「文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けたガイドライン（検討のまとめ）」を公表。
- ガイドラインを踏まえ、クリエイター等が安心・安全な環境で芸術活動が行えるよう、契約や活動に関係して生じる法的なトラブル等について、弁護士が年間を通じて、オンラインにて無料で相談対応を行う法律相談窓口を文化庁に設置。



令和5年度にモデル事業として試行した法律相談窓口における出張相談会の様子

②分野別研修用教材の開発

芸術家等の活動基盤強化（R7当初予算案 0.69億円）の内数

- 上記ガイドラインをベースに、芸術家等やその発注者になる者が、適正な契約関係を構築するための必要な知識を身に付けることができるよう、分野別の研修用教材を開発。
- 教材や研修動画を文化庁HPで公開。また、各団体が教材に基づく研修を各地で実施。



令和4年度芸術家等実務研修会の様子

③文化芸術団体の機能強化等に向けた支援

芸術家等の尊厳ある創造環境向上促進事業（R7当初予算案 0.34億円）

- 多様な芸術家が尊厳をもって自由に創造活動を行う環境を醸成するため、文化芸術団体に対し、法務やリスクマネジメントの専門家等と協働して団体の組織体制強化や運営改善等に係る支援を実施。
- これを通じて、分野や団体の特性を踏まえた活動実態の分析・可視化を行い、より本質的な課題の特定や適切な改善手法の開発等を実施。